

在京白聖會報

第18号

平成17年3月25日

発行

在京白聖会

〒101-0025 東京都千代田区

神田佐久間町1-11

産報佐久間ビル

産報出版(株)内

TEL&FAX (03) 3254-9301

<http://www.hakua-sokei.co.jp/index.htm>

在京白聖會

5月14日(土)アルカディア市ヶ谷で開催 今年のテーマは、「科学の最先端」と「ふるさと香り」

日時…5月14日(土) 午後4時

場所…アルカディア市ヶ谷(私学会館)

会費…一〇,〇〇〇円(年会費二,〇〇〇円を含む)

学生・院生 三,〇〇〇円(同右)

クジラ肉で盛り上がった35周年記念総会のあとを引継ぐ幹事は難しい、と嘆いていてもはじまりません。本年の幹事を務めます48年卒は、手作りの味で、

皆さんに楽しんでいただきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

第一部は、超伝導研究のトップランナーとして活躍する村上雅人君に「常識という殻をやぶる科学の挑戦」と題して、科学の最先端をわかりやすく話してもらいます。



雅人君に「常識という殻をやぶる科学の挑戦」と題して、科学の最先端をわかりやすく話してもらいます。

「超伝導」なんて何やら難しげなと思われるので、くださいます。実験道具を宇宙に運び出すときの苦

講師とテーマのご紹介



『常識という殻をやぶる科学の挑戦』 〈講師〉村上雅人(49卒)

村上君は、盛岡一高3年の時にAFSにて1年間アメリカに留学したため、卒業は49年になりましたが、私たち48卒の同期生です。東京大学工学系大学院博士課程終了後、新日本製鉄、超伝導研究所などを経て、現在、芝浦工業大学に勤務しています。20年前、常温超伝導が時の話題となるや、超伝導研究のトップランナーとしてテレビでも注目をあつめました。現在、宇宙での超伝導実験などの国際プロジェクトを推進するリーダーとして活躍しています。「常識を持つということは、人間関係を良好に保つためには重要なことです。しかし、科学分野においては、常識を捨て去ることにこそ技術革新の芽があります。」



昨年の総会のアトラクション

労話と
か、最
先端の
科学が
ぐつと
身近に
感じら
れるエ
ピソードと
と実演を
まじえて
のお話に
な
る
予
定
で
す。

第二部の会場には、ジャズの演奏で迎えたいと思います。ジャズのどこが「ふるさと香り」か、なんてつっこまないでください。懇親会場で「ふるさと」を思い出しただけのよう準備中です。乞うご期待。

展示書籍募集

総会の書籍展示コーナーに展示する白聖会員の著書・書籍を募集します。希望者は著書・書籍を下記宛お送り下さい。会場での販売は行いません(希望者には注文書を配布)ので、1タイトル1冊。展示後は母校・盛岡一高の図書室に寄贈させていただきます。返却はいたしませんのでご了承下さい。

(著書・書籍送付先) 株式会社建築空間研究所
〒151-0073 渋谷区笹塚2-19-3 7F 戸田 純 宛て
電話 03-3299-2755 ※平成17年4月28日(木)必着。



昨年の総会風景

お願い

総会欠席の方は、同封の振替用紙で会費二,〇〇〇円を振込み願います。

ところで、各界で活躍されている同窓会員の皆さまには、著書をお持ちの方も多数いらっしゃるかと思えます。本年の企画の一つとして、それらの著作を会場内に展示して、ご披露したいと考えております。また、本会終了後、それらを盛岡一高図書室に寄贈し、在学中の後輩たちに、同窓生の活躍の一端を示してはどうかと考えております。趣旨にご賛同いただける方は、4月28日までに、出欠ハガキの宛先(戸田)にお送りください。なお、出欠のご連絡は、同封のハガキにて、遅くとも4月28日までお願いいたします。

(48年卒)

●3月10日

昭和20年3月10日未明、B 29 313機が焼夷弾二〇〇〇トンを空から投下し東京大空撃を行った。死者は十万人に達した。

盛岡も編隊を離脱したB 29 一機によって駅前と大沢川原に焼夷弾を投下され、155戸焼失。被災者613名、死者3名、傷者5名の犠牲者が出た。

この3月10日という日は、日露戦争で日本が奉天入城した日。明治38年3月10日、奉天入城した日は陸軍記念日に制定されていた。

ちなみに肉弾戦を戦ったとされる日露戦争での日本軍の死者は8万人。盛岡南部家42代伯爵南部利祥陸軍騎兵中尉も、この日露戦争の奉天戦に従軍中、24歳の若さで戦死された。その銅像は、岩手公園の中に建つ。

●真珠湾攻撃に参加

太平洋戦争での白聖会の先輩も多く戦死されました。

小田島敬二(元海軍上等兵曹(昭和13年卒))は、盛岡出身者



若き日の高橋元昭・元校長(円内)と、高橋元昭・元校長が八重畑達男氏の卒業アルバムに記念に寄せた揮毫(写真左)。高橋元校長にとって盛岡は初任地だった

國史ニ感激セヨ

昭和十八年二月

高橋元昭

として唯一、ハワイの真珠湾攻撃に参戦。空母6隻から発進した353機の1機に乗り込んだ。このハワイ戦からは無事帰還したが、昭和17年4月4日、フィリピンコレヒドール島上空で戦死された。

●水泳オリンピック指名選手

日大の水泳部に進み、水泳のオリンピック選手に指名されていた越戸優一元陸軍上等兵(昭和13年卒)、柔道の佐藤眞一先

終戦60年を迎えて

八重畑達男(昭和18年卒)

今年は終戦60年目となる。戦後世代が還暦を迎える。かつて戦争は、白聖健児の運命を翻弄した。そんな歴史を知らない世代が大多数となる。しかし、同じ道をたどらないためにも、戦争がいかに青少年の夢を奪ったか、正視しなければいけない。それは、白聖に学んだ者の使命だと思ふ。戦争という渦中に、何を思い、どう生きたかを八重畑達男先輩に書いていただいた。



佐藤工兵隊の活躍を報じた当時の新聞

生(昭和6年4月〜同16年4月)もフィリピンでの戦闘で全軍布告の感状を戴き戦死された。

陸軍大尉佐藤眞一率いる佐藤工兵隊は「敵上陸軍に対し果敢なる挺進奇襲を決行」とその奮戦が新聞にも報道された。

●曉部隊

戦況が思わしくなくなると、曉部隊が編成され、全国で30部隊3000名程の少年兵が船舶特別幹部候補生として召集され

た。ベニヤ板の舟に250キロ爆弾を積んで敵に突つ込む海上特攻部隊である。この曉部隊に入つた盛岡中学生が3名ほどいるが、ついに彼らは還らなかつた。また、特別攻撃機で戦死された盛岡出身者は、

工藤 太郎(昭和16卒)
菊池 久(昭和15卒)
佐々木榮吉(昭和15卒)
江田 耕二(昭和18卒)
の4名。この中に、陸軍の海上特攻で亡くなられた盛中生は



昭和17年5月に発行された盛岡中学校報告団報第1号。これも本土総決戦への布石だった

●シベリア抑留

昭和20年8月15日、終戦の詔勅により、復員が始まった。しかし同級生の荒谷多喜男君(昭和18卒)はシベリア抑留され戦病死された。同じく同級の伊藤盛君(昭和18卒)は船舶特攻にてフィリピンにて戦死された。仙台二中に転校した同級の加茂信也君は、仙台空襲にて二高在学中、死亡された。

この他にも多くの先輩が戦争で亡くなられている。

当時の中学では「発火演習」という軍事訓練がずっと行われてい

た。盛岡中学にも配属将校がいて、軍事訓練が行われた。あの啄木が「おれも中隊長になつて指揮をとりたい」と日記に書いているが、当時はそういう時代だった。

それでも私たちの時代までは、授業がちゃんと行われ、勉強も一所懸命やっていた。下級生たちは勤労動員で松尾鉦山などに狩り出されるようになった。

上の橋で記念撮影する盛中生



●トピックス

メキシコ五輪サッカー日本代表主将

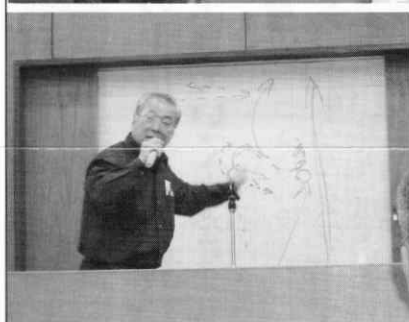
八重樫茂生さん(昭和27年卒) サッカー殿堂入り!

5月から文京区の
サッカーミュージアム
で写真展示八重樫茂生さん
(昭和27年卒)

↓早稲田。今回一緒に殿堂入り
の追悼式で八重樫茂生さんが講
演されたときのものです。村野
井徹夫さん(茨城大学工学部教
授・昭和35年卒)が撮影したも
のです。

メキシコ五輪サッカー日本代
表主将の八重樫茂生さん(昭和
27年卒)がサッカー殿堂入りし
ました。以下に、平成17年3
月11日付、岩手日報・夕刊の
記事全文を紹介します。

なお、写真は平成16年11月18
日、日立市サッカー協会主催で
行われた元・鹿島アントラーズ
監督、宮本征勝選手(日立一高

「サッカーを通しての人生哲学」
講師：八重樫茂生氏(元日本代表)(写真上) 日立商工会議所で講演する八重
樫茂生さん。(写真左) フォォーメーション
の説明をする八重樫茂生さん。「至本の右
に出るストライカーはまたいない」とか
結構べらんめえで面白かったとは、撮影
した村野井徹夫さんの弁です。

日本サッカー協会は十日の
理事会で第一回「日本サッカ
ー殿堂」入りの20人を決め盛
岡一高出身(↑早大)で1996
年のメキシコ五輪日本代表
の主将を務めた八重樫茂生氏
(71歳、日野市在住)が選ば
れた。八重樫氏はメルボルン、
東京、メキシコと三度の五輪
に出演し、メキシコ五輪では

銅メダルを獲得した。殿堂入
りに「驚いたが、光栄に思う。
五輪に出演した当時を思い出
した」と感慨に浸っている。

八重樫氏は早大2年のとき
の1956年にメルボルン五
輪にCFで出場。古河電工入
りして、64年の東京五輪では
MFとしてベスト8進出に貢
献した。現役引退後は日本ユ
ーイス、日本代表コーチとして
国際競技力の向上に尽力。富
士通総監督、ジェフ市原スー
パーバイザーなどを歴任した。
八重樫氏は「東京五輪で選
手強化したことがメキシコで
のメダル獲得につながった。
釜本邦茂、杉山隆一ら当時の
メンバーとともに殿堂入りで
きて本当にうれしい。集合写
真を何度も見返した」と喜び
を語った。

県サッカー協会の小野寺吾
老会長は「八重樫さんの功績
は日本のサッカー界にさんぜ
んと輝くものだ。本県にとっ
てもたいへん喜ばしい」と祝
福した。

なお、5月から文京区のサッ
カミュージアムで写真などの
展示が行われます。

●トピックス

「第四の感色層を有するカラーネガフィルムの発明」
佐々木登さん(昭和42年卒) 紫綬褒章授章佐々木 登さん
(昭和42年卒)

昭和42年卒、疾風会の佐々木
登さん(富士写真フイルム株式
会社)が、平成16年春の
褒章で技術開発分野にお
ける貢献が認められ、「紫
綬褒章」を受章しました。

受章理由は、「第四の感色
層を有するカラー写真感
光材料の開発と実用化」。

樹木希林の有名なTVコ
マシーナル「きれいな
女性はいくらに、そ
うじゃない女性はそのな
りに」という富士フィル
ムのカラーネガは、彼の
開発した商品だったとい
うことです。平成2年に
科学技術庁長官賞の研究
功績者賞を受賞、平成14
年全国発明表彰朝日新聞
社賞を受賞したことが資
格となったようです。

同時に受章された方
の中には、芸術分野では女
優の岩下志麻さん、映画

監督の大林宣彦監督など、錚々
たるメンバーが多数。佐々木登
さんは、現在、研究所を離れて、
同社の液晶事業の最高責任者と
して活躍しています。

疾風会は、今年2月19日(土)
お祝いを兼ね同期会を開催し、
めでたさを分かち合いました。



佐々木 登さんを囲んで写真におさまる疾風会の皆さん

白聖活躍人 吉田裕子さん(ピアニスト・平成10年卒)

大学を卒業して音楽中心の生活になった時、自分がそれとどのようになんて生きていくかを考えるようになりました。



ピアニスト 吉田裕子さん
(平成10年卒)

私にとって、音楽は自分自身を反映するものです。そのみが単独で存在するのではなく、自分が経験したことや感じたこと、関わった人、すべてが繋がって初めて存在し、そこから学んだ喜びや悲しみ、感謝の気持ち私の音楽を深めてくれると思います。



演奏中の吉田裕子さん

また、学生の頃は気付きませんでした。学生が、社会に出ていろいろな場を踏んでいく中で、それまでに自分が勉強もピアノも非常に高い水準の教育を受けていたことを知りました。盛岡という地方都市にいながら、一人ひとりと与えられた環境の中で出来る限りの可能性を引き出す、これが教育の力なのだと思えました。

将来、同じような夢を持つ子供たちに教える立場になった時に少しでも多く力になれるように、まず自分自身が音楽にとどまらず、いろいろな勉強をしたと思います。そして、今に生きる日本人として、一方では世界の人々と同じ喜怒哀楽を持つ一人の人間として、自分を表現していきたいと思っています。

吉田裕子さんプロフィール

旧姓小川裕子(H12年、養子になり現姓に)。盛岡市出身。3歳より盛岡音楽院に学び6歳より吉田見知子氏に師事。盛岡一高を経て、東京音楽大学卒業。これまでに吉田見知子氏の他、小林仁、津川宣雄の各氏に師事。現在に至る。第17回日本ピアノコンクール全国大会第1位。第14回国際ピアノコンクール出場。ソロリサイタルをはじめ、これまでにドイツ・パッサリステン、ワルシャワフィルハーモニー管弦楽団、ポーランド国立放送交響楽団、ウィーン木管アンサンブル、アンサンブル・ウィーン、イタリア・バドヴァ管弦楽団、バイヤール室内管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー六重奏団、サンクトペテルブルグ交響楽団、ライプツィヒ弦楽四重奏団などと共演。なお、吉田見知子氏は在京白聖会会員のピアニスト、森知英さん(昭和63年卒)の師でもある。

高校を卒業して7年が過ぎた今も、あの日々の輝きが色褪せることはありません。東京という盛岡から離れた地で、同じ気持ちを知る多くの先輩方に私の音楽を聴いて頂けたらとても嬉しいです。(盛岡市在住)

同好会活動奨励金制度発定

在京白聖会会員による

同好会活動をはじめませんか

新年度から、在京白聖会会員同士でつくる同好会に対して、一定の条件を満たしたところに活動奨励金を出すことになりました。金額は年間5万円程度で、募集同好会数は4、5サークル。1サークル20人程度以上で、定期的な活動を行うサークルが対象となります。かねてから要望の強かった、年一回の総会以外に会員相互の親睦と教養の向上を図る場をつくって欲しいという声に応えたものです。すでに活動している「ゴルフ同好会」などもこの対象になります。新規の同好サークルとしては「白聖女性クラブ」「美術観賞クラブ」「古い文化建築をみる会」「白聖五行歌会」などが名乗りをあげそうです。この機会に、白聖の仲間同士で同好の士を募り親睦を図りたいという会員は、どしどし手を挙げて下さい。事務局宛、活動内容と連絡先をお知らせいただければ、次号会報の会員募集特集号でご紹介いたします。なお、本件に関する問い合わせは在京白聖会事務局(〒985-5113 5月13日以降、新事務局に移転)までお願いします。

●第2回在京白聖会ゴルフ大会

優勝・年次対抗の部は「30年卒」

個人の部は小林建俊さん(36年卒)

第2回在京白聖会ゴルフ大会が平成16年11月19日、ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎に13組51名が参加して行われました。結果は年次対抗はS30年卒チーム(杉湖清、玉田剛嗣、松本雄、佐藤陽二)が優勝。個人の部は優勝・



個人優勝の小林建俊さん(36年卒)



年次対抗で優勝した30年卒チーム。お揃いのプレザーで参戦した

小林建俊(S36年卒)、準優勝・田村晴夫(S50年卒)、3位石井充(S42年卒) 敬称略。

編集後記

今年は終戦60年。戦争を知る白聖会員も高齢となりました。戦争体験が風化しないよう語り継ぐことも、後輩の大切な務めではないでしょうか。

なお、在京白聖会事務局が5月の総会後に変更されます。新しい事務局は、〒105-0003 港区西新橋1-10-11バティ11ビル8F 玉澤健児税理士事務所内。玉澤健児さんは43年卒。応援下さい。